

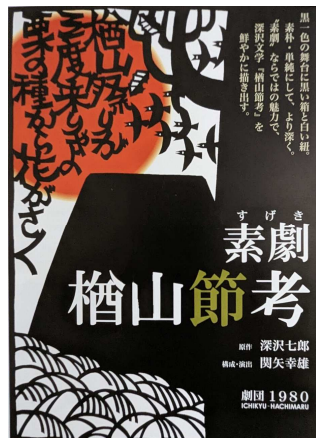
争議も地域の活動も全力投球

JAL被解雇者労働組合
西予市在住 大池ひとみ

JALを解雇されて12年と5か月、こちらに戻ってき
て10年が経ちました。
私が住んでいる南予一帯は
高齢化、過疎化が進み、子ど
もも少なく、娯楽施設もほと
んどありません。人々はその
中で日々穏やかな毎日を通
してきます。私が生まれ育つ
た故郷をなんとか活性化し
たいと考へ、「灯りのイベント」
を始めて5年、「中世の山城を
活用する会」を立ち上げて3
年、そして、今度は演劇です。

でも気が付いたら3作目とな
る劇団1980「素劇・檜山
節考」が昨日無事終わったと
ころです。まんまと乗せられ

てしまいました。こんな年寄
りばかりの地域に、姥捨山の
芝居なんて、と思ったのです
が・・・
(裏面に続く)



松山市民劇場から、南予に
「演劇を観る会」を作りたい
と言われたとき、はっきり申
し上げました、「無理です」。

JAL愛媛争議団を支える会

ニュース



勝利解決の日まで
たたかう

発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛争議団を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2

ぶれない活動は勇気とパワーを与えている

元日本航空客室乗務員 宇和島市在住
森 真理

私も 応援します



フランス全土に及んだ年金改革
への抗議の怒りは、いまだ止むこ
となく燃え続けています。流石革命の
国だな・・・と、ある意味羨ましく思
いながら感心してニュースを観て
います。

一方で、日本はというと、爪牙を
完全に抜かれてしまい、唯々、大本
営発表だけを信じて作られた社会
に大人しく順応している国民です。
いつから私達はそうってしまった
のでしょうか。

2010年、日本航空は経営破綻を
おこしたという体で、どさくさ紛れ
にあらゆる協定を無視して人員整

理を断行し、挙句に退職の意志のな
い165名の労働者を解雇するとい
う暴挙に出ました。民営化後の経営
の失敗のツケを労働者にまわした
無能ぶりの結果です。1980年代か
ら始まった公営企業の民営化の波
が日本全土を覆った感があります。
そしてセットのように非正規雇用
の常態化に繋がりました。今もな
お、水道事業や公立病院等の民営化
が着々と進んでいます。私達国民は
そろそろ民営化の失敗という事実
に向き合い、危機感を持つ必要が
あります。そして、潔く間違いを認め
是正する勇気を国に求める行動を

起こす時でしょう。
そんななか、JHUの皆様方の13
年間の不屈の闘いは頭が下がる思
いです。皆様方が続けていらっしや
る地道な闘い、ぶれない活動は、日
本中の働く仲間たちに立ちあがる
勇気とパワーを与えているのでは
ないでしょうか。また、彼らを見て
いて、仲間同士の繋がり・団結がい
かに大切かという思いを新たにし
ました。
紆余曲折を経て、今のJHUとい
う形を作り上げた皆様方の気高い
思いは、必ず成就することを信じて
応援いたします。

この劇は「素劇」と言つて、舞台は何もなく役者も黒い衣装のみ。道具は、箱と紐と枝と布だけ。なのに、「傑作なのよ」とおっしゃる。我らはそれを信じて、南予一帯を手分けして回り、ポスターやチラシを配りながら、チケットを売りさばきました。

「お歳寄りにこそ観ていただきたい。人はいざれ死ぬのです。死というものに向き合い、親は子に感謝の気持ちを持って迎える準備をする。考えさせられ、かつ元氣の出るお芝居なんです。何も無い舞台からインスピレーション、イマジネーションを膨らませていける楽しいお芝居でもあるんですよ」と。

日本において、その道のプロフェッショナルと呼ばれる人のなんと少ないことか。そういう人たちの才能や、技術や経験を評価することをせず、大切に育て守ってこなかったこの国は芸術に対して非常に理解度の低い国と言わざるを得ません。彼らの才能と努力、そしてそれらを評価する厳しい目、温かく見守る目があり、観る方も観られる方もともに真剣勝負なのだと思ふ世界の舞台を観るたびに思ひます。

パリの新オペラ座で「リゴレット」の初日に当たったことがあり、私の眼には、なかなか良い感じ、と思えたのですが、カーテンコールの時、マントヴァ侯爵にだけ、大ブライディングが沸き起こりました。目の肥えている観客には我慢がならないほどの出来栄えだつたのでしよう。だめだと思つたら容赦ない評価を与える観客もプロ、演じる方もプロ、プロ同士のせめぎ合い

のすごさを感じたひと幕でした。

人との交わりは宝物

私たちは、「おかしいことはおかしい」と声を上げ続けて解雇されました。そして、「この解雇はおかしいから元に戻せ」とさらに声を上げ続けています。

「灯りのイベント」も、「山城の活用」も、「演劇を観る会」も、一見するとJALの問題と全く別のものに見えますが、私にとっては等しく大切なもので、すべてに全力投球しています。そこから支援の輪が広がり、思わぬことから繋がっていく場面にたくさん出逢いました。人と人の交わりほど素晴らしい宝物はありません。

あるミュージカルの中に出てきた台詞、「この世の中で無駄なことなどひとつもないんだよ」、そのとおりだと思いません。世の中、どんな便利になつていき、無駄を省き、合理的に、快適性を求めて日々

進歩していますが、愚鈍に無駄を承知で頑張ることも私は必要だと思つています。ただ、そのことで人様にご迷惑をかけてしまつては元も子もない。そこが一番の悩みの種ではあるのですが。

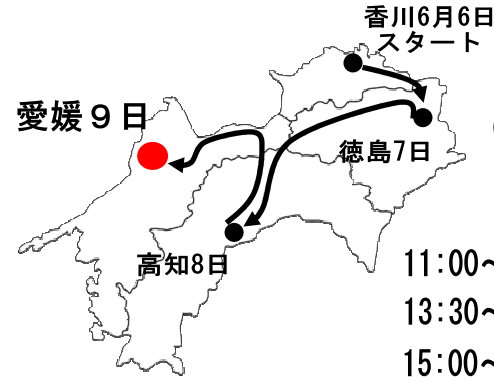
頑張れ、西予市民

がんばろう、JHU

そんな中で、西予市民が立ち上がりました。おとなしく、内々では文句を言いながらも周りと迎合しながら静かに生きてきた彼らが、市立病院民営化に対して、「ノー！」と声を上げ始めたのです。これはとても画期的なこと。署名活動を開始し、市内のみならず、日本中、いや世界中にアピールしています。署名ごときで行政が動くかどうかは甚だ難しい問題ではありますが、私はこの活動を支援していきたい。

四国キャラバン

全国一律最賃 1500円
JAL 争議 早期解決



6月9日(金)
キャラバン隊
松山到着

- 11:00~ 大街道口宣伝
- 13:30~ 愛媛労働局要請
- 15:00~ 市駅前宣伝

18:00~ 報告集会 《愛媛教育会館 2F》

小説「曙光へテイクオフ」の主人公北藤さんと、齊藤晃さん(争議団・元パイロット)が、取り組みを報告します。

是非ご参加ください